

4・28沖縄デー闘争へ!

2016年4月7日

No.376

Tel 03-3651-4861

mail_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

4・3選挙総決起集会での 斎藤委員長のアピール!!

7月に衆参ダブル選挙の場合、東京8区(杉並区)から衆院選に立候補し、全学連を代表し、労働者民衆の闘いと一体で「階級の前衛」の一人として闘い抜く決意です。

私たちの今選挙決戦の最大のスローガンは「非正規職撤廃一戦争・改憲阻止」ですが、最も重要なのは「新しい労働者の政党をつくろう!」ということです。

全学連は3月、京大反戦ストライキ弾圧を粉砕しました。日本中の労働者・学生、特にこの場にいるすべてのみなさんの力を結集して勝利しました。弾圧粉砕闘争の中で、京都では10日あまりで約2500筆の釈放要求署名が集まりました。昨年10月27日の京大反戦ストが、法的な意味では「威力業務妨害」であることは「当たり前」です。しかし、それを「犯罪」とさせなかった。刑事告訴した京大総長の「決定権」よりも、団結して決起した学生の「決定権」こそが「上だ」と認めているから、多くの署名が集まりました。これは明白な「階級意識」です。「労働者・学生のストライキは正義なんだ」ということです。

法的には、学生にいわゆる「争議権」はありません。しかし、それでも今回6人全員の釈放をかちとった中に多くの真実があります。3月31日、『京都新聞』で「6人が不起訴処分となった」という京都地検の決定が報道されました。そこで検事は、「各人の犯行への関与が断片的で小さい」と言っていました。敵は完全に敗北しています。

なぜ多くの人が「ストは正義」と思ったのか? 私は1988年生まれです。私もストなんてほとんど見たことも聞いたこともなかったわけです。昨年のストライキ件数は、日本全体で115件だったそうです。1985~87年の国鉄分割・民営化の時、ストライキをうち抜いた動労千葉、そして動労水戸の闘いがあり、その闘いは90年以降の国鉄1047名解雇撤回闘争に発展しました。それをめぐる100万人の支援陣形が存在しました。時の首相・中曽根の「分・民で国労と総評を粉砕し、お座敷をきれいにして憲法改正する」なる試みは粉砕され、30年近く遅れました。この闘いがあった上で、今回「スト=正義」と考える人たちが京都と日本全国に膨大にいました。東北大学での「国立大法人化阻止」の2000年ストライキから15年ぶりの大学ストです。



辺野古への新基地建設許すな! 改憲一朝鮮侵略戦争とめよう!

4・28沖縄デー闘争

4月28日(木) 12時半~ 法政大・市ヶ谷キャンパス集合

※13時半デモ出発

16時~ JR新橋駅から国会議事堂へデモ

※15時半集合



これは、分割・民営化に対して動労千葉・動労水戸を先頭に闘いに立ち上がらなかつたら、ありえないことでした。

だから「階級の勝利」です。昨年夏の安保国会闘争が盛り上がった中、学生は渾身の決起をしました。しかしあの場には、やはり労働組合、そして60年―70年闘争を闘い抜いた人たちが多くいました。その階級意識が残っている中で、改憲できない力関係がありました。

支配者たちは、本来は1994年の「朝鮮半島危機」時に改憲もやっちゃって、朝鮮侵略戦争に参戦したかった。それが20年近く遅れている。私たちストライキをやり、労働組合と学生自治会を守り、闘い抜いてきたからです。

「今こそ新しい労働者の政党をつくろう」――こう掲げて階級闘争の前面に出て行きましょう。共産党がスターリン主義であること、革命の裏切り者であるとはっきりしました。「ストライキは刑法犯」と叫ぶ連中に、いったい何ができるんですか！ 僕らの闘いで「誰がこの社会の主人公なのか」を資本家に思い知らせる時です。今回の選挙戦を通し、私は日本全国とりわけ東京に、多くの闘う労働組合をつくり、動労総連合・東京を先頭に、選挙戦が終わったらただちに東京全土の機能を停止に追い込むような改憲阻止の大ストライキをやりぬく決意です。

先ほど、『報道ステーション』の「国家緊急権―ナチス」の特集が放映されました。自民党第二次改憲草案における「緊急事態条項」も、その危険性は同じです。1933年、ナチス・ヒトラーが「国家緊急権」を最初に発動した時、ドイツ共産党が先頭でゼネストを呼びかけていました。しかし「国家緊急権」の発動でデモ・集会の自由が制限され、ストライキができなかった。労働者階級のゼネストの力で国家を内乱に叩き込み、ナチスを打倒することを当時の共産主義者の党が決断できなかった問題です。スターリン主義の指導の敗北の結果、ナチスは政権を取れた。

3月末のフランス・ゼネストを見てください。「非常事態宣言」下でも闘えます。闘う労働者の政党と闘う勢力が先頭に立てば、絶対に可能です。韓国・民主労総の闘いを見てください。2014年12月に統合進歩党が憲法裁判所に

「強制解散」を宣告され、国会議員5人は資格を剥奪され、政党登録は抹消されました。しかし、その1年後に韓国労働者階級はゼネストに決起しました。いかなる状況であれ、闘うことは本来可能です。なぜそこで「法律」に頼り、私たちの闘う意志を曲げなくてはいけないのか。

共産党は、京大同学会の反戦ストを「極小グループのストであり、不当な占拠、刑法犯だ」と言いました。「極小グループ」って何ですか？ 労働者の闘いは常に一人から始まります。遡れば、1844年のプロイセンでのシュレーゲン織工蜂起(暴動)にどのような立場をとるか？ これが、最初の科学的社会主義者であるマルクス・エンゲルスと、それ以外の「偽者」とを分けた分岐点です。労働者階級がストライキや蜂起に立ち上がり、社会全体の秩序を「大混乱」に陥れる。「そこから新しい社会が生まれる」とマルクスは主張しました。しかし、今まで「社会主義者」と名乗っていた連中は、労働者のストライキに敵対しました。

「新しい労働者の政党をつくろう！」とは、マルクス主義の立場を実践的に貫く政党をつくることです。学生は労働者階級の一部として、この選挙戦を闘います。「生きることを武器にできるのは、労働者階級だけです。資本家階級は「生きることを武器にできません。社会の主人公は労働者だから、労働者はストライキで生産を止めること自体を武器にできる。「労働者が社会の主人公である」とはっきりさせて、闘いに立ち上がります。2016年、荒々しいゼネストで戦争を阻止する闘いをつくり上げましょう。みなさんと団結し、私は選挙という戦場で候補者として闘います。労働組合・学生自治会を建設し、本当の力を見せていく闘いを選挙を通してやり抜きましょう！



【当面する行動方針】

●4・24全国交流会

打ち破ろう分断！ 取り戻そう団結！ 世界の労働者は団結して闘おう！

4月24日(日) 13時～ 川崎市産業振興会館ホールにて

主催：外登法・入管法と民族差別を撃つ全国実行委員会

●5・15沖縄現地闘争

5月14日(土)～16日(月) ひめゆり資料館見学、沖縄県民大会参加、国際通りデモ、沖縄大で集会(予定)

